

■はじめに

現在、日本に社会的養護のもとで暮らす子どもは約4万2000人。今春発足した「こども家庭庁」は里親への支援の充実のため、里親支援を包括的に取り組むフォスティング機関を支援すると決定した。しかし全国に222か所しかなく、全ての里親家庭へ支援が行き届いていないのが現状だ。そこで私たちは、造園技術を用いて里親子が気軽に交流できるコミュニティガーデンのモデルを考案し、交流をサポートする空間作りの提案している。

■里親制度とは

保護者のいない子どもや、保護者に監護させることが適当でない子どもの養育を、認定された里親に委託する制度。児童福祉法に基づく。

- ✓養育里親 さまざまな事情で家族と暮らせない子を養育する
- ✓養子縁組里親 養子縁組によって実親となって養育する
- ✓専門里親 専門的な援助を必要とする子どもを養育する
- ✓親族里親 実親が死亡した子どもなどを親族が養育する



■ Orange Gardenができるまで

Step1 ヒアリング



里親をしている先生から話を聞き、里親や里子にどのような支援が必要かニーズを調査した。

Step2 製図



五感をテーマに、里親子が交流するために適したデザインを考え、設計図を作成した。

Step3 整地



子どもたちが安心して過ごせる庭として活用するため、木の枝や石を撤去し、整地作業を行った。

Step4 剪定



周辺の樹木はほとんど手入れがされていなかったため、剪定作業を行い日当たりを改善した。

Step5 花壇・イス



里親子がゆっくり過ごせるように、剪定ででた廃材をアレンジしてイスを制作したり、花壇を制作している。

Step6 ワークショップ



樹木や花を使ったクラフト制作を通して里親子と一緒に楽しめるワークショップを考案している。

■わたしたちの想い

このプロジェクトを始めたきっかけは、里親家庭で暮らす小学生の言葉だった。その女の子は「小学校に自分と同じように里親さんのおうちで暮らす子はいない。だから、自分の気持ちをわかってくれる友達はいない。」と話す。造園は、花を育てたり、樹木を管理するだけではない。造園には人と人をつなぐ力があり、里親や里子の交流をサポートし、孤立を防ぐためのツールとして、効果的であると考えている。わたしたちOrange Gardenは、造園技術を使って、人と人とのつながりを育てるコミュニティガーデンのモデル作りをこれからも続ける。

■メンバー

【園芸科3年】
小泉彩乃 小松崎心愛 正木葵良葉

【園芸科2年】
内山太晴 川島啓太 佐藤章 椿豊
豊倉由一朗 松本龍弥 柳大希

【協力】園芸科2・3年 造園専攻